

令和3年度 第1回高齢者福祉部会 会議内容概要

日時	令和4年2月8日(火) 午後2時～3時30分
開催場所	ウェブ会議(Zoom会議) 近江八幡市役所 本庁4階委員会室
出席者	塚本部長、西川副部長、寺町委員、岡田委員、東森委員、中村(公)委員、石黒委員、大西委員、谷委員、中島委員、中村(君)委員、奥野委員、森田委員、今西委員 計14名
欠席者	柳委員、森村委員
傍聴者	なし
事務局	長寿福祉課、介護保険課
議事事項	第8期 総合介護計画 目標達成に向けた取組と指標について(高齢者福祉部会関係分)
内容	<p>○開会あいさつ(長寿福祉課長)</p> <p>○部会員紹介</p> <p>○配布資料確認</p> <p>○部長・副部長選出(塚本部長、西川副部長)、就任あいさつ(塚本部長)</p> <p>○議長選出(塚本部長)</p> <p>○審議事項</p> <p>【議事】第8期 総合介護計画 目標達成に向けた取組と指標について</p> <p>事務局より、昨年度策定した第8期計画について計画の体系を説明するとともに、目標達成に向けた取組内容とその結果・効果や今後の方向性について、意見を求めた。</p> <p><主な意見等></p> <p>方向性1 生きがいつくり、活躍の場に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブ離れが深刻になっているため、魅力ある活動を行いたいと思っている。様々な取組を行い、みなさんに参加いただくことで老人クラブの良さを多くの方に知ってもらうために頑張っている。 ・趣味的活動などの様々な活動をおこなうことは生きがいつくりとしてとても重要である。 ・同じ趣味や興味関心があるものを小さな単位でも活動として築いていくことで高齢者の参加や外出の機会に繋がるので、趣味的活動から積極的に入っていけるよう、こういう活動を紹介していくことは重要である。 ・サロンと老人クラブが連携して活動することで、仲間づくりが進み老人クラブの加入率が上がる事例がある。 ・地域の現状として、コロナの感染拡大でいきいき百歳体操を自粛しているところが増えてきている。 ・コロナの影響で活動が停止したことにより、引きこもり、閉じこもりの状況とともに、コロナをきっかけとした高齢者のうつ状態も増えてきている。 ・コロナによる、うつ状態や虐待などの影響も意識し、やれる範囲で活動してい

くことが重要。

- ・人の生きがいは周りから承認されたり、それぞれの役割を持って活動することであるので、サロンや老人クラブなどに繋げていくことが大事である。
- ・結果の数値だけにとらわれるより、成功事例を評価し、情報共有し参考にして取り組んでいくことが、生きがいつくりの活動に繋がる。

方向性2 介護予防、健康寿命の延伸に関して

- ・高齢者の生きがいつくりとして、昔に使っていた道具を見ながら思い出す回想法という取組を進めている。参加者はいきいきと話をされ、活動の日が楽しい、毎日が楽しいと生きがいを求めて参加されている。最終的には、地域の行事やしきたりなど、絵屏風に仕上げることを目標にしている。物を作る、昔の思い出を出すだけではなく、高齢者の生きがいとなるよう取り組んでいる。
- ・予防プランの中でインフォーマルサービスが7割近く結び付いているが、コロナの影響で、いきいき百歳体操などの行き場所がなくなっている課題もある。
- ・通いの場の整備に関する補助金の申請が少ないが、対象要件が厳しいとモチベーションを下げる要因になる。基準やマニュアルの見直しも必要だと思う。
- ・リハビリ専門職が通いの場に介入することは大事だと思う。専門的な評価をすることで、利用者のモチベーションや自身の体力の現状を知る機会になるので、予防的な視点にも繋がる。
- ・介入した結果を情報発信することで、サロンを活用すると機能が維持されるということが住民に伝わる。

方向性3 安心して暮らせる環境やしくみづくりに関して

- ・職能団体の活動などの資源が十分活かされていない印象がある。
- ・事業に連携して取り組む医療機関や専門職などを増やしていくとよい。
- ・他市では、医療専門職等がサロンに数回行って評価を実施し、現状を参加者にフィードバックする事業を行っている。
- ・現在、連携している医療機関の取組事例も紹介してほしい。
- ・団塊の世代が後期高齢者になり、様々なことに関心が高い人が増えてくる。自分の体力などを専門職に評価してもらえるとというのは、そういった場に参加する意味合いが高くなるとともに、目標ができることで継続性の意味からも大きい。これからは専門機関、多職種との連携した取組がますます必要となる。
- ・互助と公助が連動して取り組む仕組みづくりが必要。できることから一つずつ丁寧にやっていくことが重要である。
- ・コロナが治まれば積極的に事業を進められるよう、今の段階で専門機関と連携し、行政機関や地域包括などでテーマや方向性を決めておくことが重要。
- ・事前登録制度があるが、もっと早い段階で発見できる位置情報提供サービスの利用が増えるよう取組を検討し、効果的に運用できると良い。

○その他 特になし

○閉会あいさつ（西川副部会長）